

授業科目 臨床実習 II (評価)

【担当教員名】 古西 勇、齋藤 慧	対象学年	3	対象学科	理学	
	開講時期	後期	必修選択	必修	
	単位数	4	時間数	180	
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 臨床実習の一般目標の核心部分は、臨床において理学療法の対象となる方との適切な接し方を身につけることである。その上で、その方のために、自分自身が持つ知識や技術、人間性、責任感、連携能力を最大限に役立て、理学療法を実践し、省察を通して向上心を高めることが求められる。臨床実習 II (評価実習) では、模擬患者を対象とした基本的な検査・測定の実践の後に、臨床現場において実際の対象者にご協力いただき、臨床実習指導者の指導の下で、検査・測定と評価を実践する。 臨床現場における実習の一般目標は以下のとおりである。 (1) 理学療法実施に際し、倫理的、法のおよび専門職の観点に立った責任感を形成する。 (2) 学内で学んだ知識と技術の統合をはかり、臨床における理学療法の実施に必要な資質および技術を習得する。 (3) 理学療法の対象疾患や障害にかかわる患者様・利用者の方に対する全般的な理学療法業務を学ぶ。 (4) 病院・施設と理学療法部門の組織や機構の相互関係を学ぶ。 (5) 関連する医療業務の役割と理学療法との相互関係を学ぶ。 (6) 専門職における研究に対する価値について知識を高める。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 対象者との接遇とコミュニケーションが適切に行える 2. 臨床における理学療法とその対象者について幅広く説明できる 3. 基本的な検査・測定が模擬患者および実際の対象者を対象として適切に行える 4. 日々の検査・測定の結果を適切に記録できる 5. 必要な情報収集を行い、検査・測定結果とあわせて解釈し、問題点・目標・治療プログラムを立案できる 6. 臨床における安全管理を臨床実習指導者の監視下において実践できる					
回数	授業計画・学習の主題		SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	オリエンテーション、リハビリテーションにおけるリスク管理の講義および小テスト		全 全 全	担当：古西 勇 他 臨床実習指導者および担当教員 担当：古西 勇 他	
2	模擬患者評価実習 (評価 OSCE)				
3	臨床実習 (1施設1~数名の配置)				
4	省察および実習後セミナー				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		リハビリテーション リスク管理ハンドブック 改訂第2版	亀田メディカルセンター リハビリテーション科 リハビリテーション室	株式会社メジカル ビュー社	2012・4,410円
参考書		診察と手技がみえる vol.1(第2版)	古谷伸之(編)	メディックメディア	2008・6,000円+税
その他の資料		学生実習要綱			オリエンテーションにて配布する
【評価方法】 オリエンテーション・講義・評価 OSCE の出席を前提条件とし、小テストの合格(≧80%)、評価 OSCE の合格(≧可)を経て実習に行く。臨床実習を所定の要件を満たして終了し、実習後の提出物(ポートフォリオを含む)と臨床実習指導者による学生評価を受付の期限内に提出した学生を評価対象とする。学生評価(可, 70点; 不可, 0点)、実習後セミナーでの発表内容と参加態度の評価(-20点~20点)および提出物(コメント用紙)の評価(0~10点)の合計により判定する。			【履修上の留意点】 臨床実習期間中は、臨床実習指導者の指示に従うこと。詳細はオリエンテーションにて説明する。		